

柏崎刈羽原子力発電所7号機  
原子力規制庁による審査結果に関する住民説明会  
アンケートでいただいたご質問への原子力規制庁からの回答

※質問、回答ともいただきました文をそのまま掲載しています。

**【質問1】**

○今日回答なかった次の2点について、規制委員会の回答をいただきたい。

- ①原発避難時の内部ヒバクは避けられないこと
- ②内部被ばくの危険性、即ちβ線の危険性が著しく過小評価されていること
- ①②より、原発運転はとても安全とは言えないのではないか。

**【回答】**

①

- ・原子力災害対策指針に基づく防護措置は被ばく線量を合理的に達成できる限り低くするものであり、原子力災害時の被ばくをゼロにすることを保証するものではありませんが、原子力災害対策重点区域内では、予防的避難を放射性物質の放出前の段階で、避難・一時移転を放射性プルームの通過後にそれぞれ実施するとともに、必要に応じて安定ヨウ素剤を服用することにより、避難時の内部被ばくのリスクを可能な限り低減することとしています。
- ・なお、原子力災害時において、被ばく線量をゼロにしようとする試みは実行不可能であり、おそらく有害ですらあることが国際原子力機関(IAEA)の安全指針でも指摘されています。例えば、放射性物質による汚染のレベルが低い地域から移転する場合などには、回避できる放射線による健康リスクよりも避難行動による健康リスクが上回る可能性があります。

②

- ・原子力災害対策指針では、同指針に基づく防護措置を適切に講じることにより、内部被ばくによる影響も含め、統計学的に被ばくによるリスクの増加に優位な差が認められない線量域に被ばく線量を抑えられるよう策定されており、被ばくの危険性を考慮したものとなっています。

**【質問 2】**

○P33 竜巻編 風速 92m/s 建物は ok だが、送電線は大丈夫なの？  
68.75m/s 長時間停止すると思うけどな

**【回答】**

- ・風速 92m/s となる竜巻が発生した場合には、外部電源（送電線）による電気の供給には期待せず、竜巻に対して頑健である建屋の中に設置された非常用ディーゼル発電機により必要な電気が供給できる設計であることを確認しています。
- ・また、外部電源が長時間にわたって停止した場合であっても、発電所内に非常用ディーゼル発電機が 7 日間連続運転するために必要な燃料を有する設計であることも確認しています。

**【質問 3】**

○ID 問題について、第 3 四半期報告書で規制委員会に報告すると言っていたが、地域の会での報告書案にはのっていない。本当に報告する気はあったのか。

**【回答】**

- ・四半期に一度作成し原子力規制委員会のホームページ等で公表している検査結果報告書（案を含む）は原子力施設安全及び放射線安全に関するものです。核物質防護に関する検査結果は、核物質防護上の観点で当該報告書には記載せず非公開となっています。
- ・なお、柏崎刈羽原子力発電所の ID カード不正使用事案について、原子力規制庁は昨年 10 月に原子力規制検査を実施したことから、その結果については第 3 四半期に行った検査の結果として、本年 2 月 10 日に開催された原子力規制委員会に報告しました。